

しずおかTIO－OFF奨学金寄付者 2025年8月寄付の募集開始

2025年秋から寄付のお願いを開始し、多くの方からご支援をいただきました。深くお礼を申し上げます。お寄せいただいたご寄付は、すべて奨学生への給付金として使わせていただきます。(以下、敬称略)

■2025年8月15日～12月26日

牧野 善浴 宮城島 豊
秋島 清美 藤井 達正
竹口 真弘 南條 成子
石川 貴博 村松 寛子
山田鍼灸治療院 片桐 一成
大沼 久美子 石川 史江
伊藤 美智代 荒井 まり子
大内 悦男 "株式会社
羽倉 大地 TENARI
小倉 治 小平 綾天"
甘蔗 和成 澤木 公子
長友 くに 三浦 周子
浅井 孝順 高橋 浩昭
土屋 利絵 吉川 マサ子
前田 洋子 秋島 清美

■2026年1月27日～8月7日

高田 奈津美 伊藤 悠斗
森下 久美子 長友 くに
小倉 治 藤井 達正
藤井 まり 福室 春美
大沼 久美子 増山 摩里子
黒井 夏葉 大塚 卿之
酒井 律子 浅井 孝順
鈴木 宜仁 窪野 学
伊藤 土屋 いく代
北見 仁一 鍋田 敏子
石崎 保子 宮城島 豊
倉本 ヒロ 中村 美保子
岩淵 朱美 岸田 哲
遠藤 豊一
森 ひろみ

36名 その内匿名7名 1,472,500円 33名 その内匿名5名 293,100円 合計:69名 その内匿名12名 1,765,600円

奨学金を立ち上げる原資となった寄付だけでなく、この奨学金が継続して障害のある人の学びを応援することができるよう、引き続き皆さまのご協力をお願いいたします。

～しずおかTIP－OFF奨学金からご寄付のお願い～

『しずおかTIP－OFF奨学金』は篤志家の寄付を原資に2023年秋に設立しました。静岡県内に住む障がいのある若者たちへの返済不要の奨学金です。毎年5名が給付型(月額5万円)の奨学金を受けて、大学等の高等教育への進学の実を叶えています。この事業を永く継続するためには、将来にわたる奨学金の基金の充実が不可欠です。障がいのある若者がそれぞれの【夢】に向かい、そこからかけがえのない物語が生まれていくことを願い、この奨学金を継続していくことが当団体の願いです。今後とも皆さまのお力添えをお願いいたします



2027年度
しずおかTIP－OFF奨学金
募集要項

2026年10月1日募集開始

給付額:月額5万円(年60万円)返済不要

給付期間:修学最短期間

募集学生数:毎年5名以内

詳細は当奨学金ホームページをご覧ください。→



編集・発行

しずおかTIP－OFF奨学金企画運営委員会

本部:特定非営利活動法人静岡障害者協会

静岡市葵区城内町1-1 静岡市中央福祉センター内

事務局:しずおかTIP－OFF奨学金事務局

静岡市葵区安東1-2-3 マロンコート安東

Mail:tip.off.kikin2023@gmail.com

Tel:080-7357-4874(平日10:00～17:00 時間外は留守録対応)

発行:2026 年10月1日

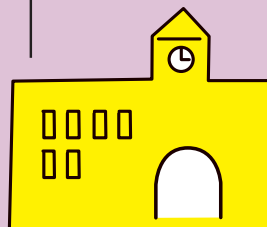


障がいのある人が学ぶための奨学金

NEWS LETTER

ニュースレター
発行:2026年10月1日

No.03
2026 年



『くいのち』の歩み』

「社会の中にある障壁が〈障害〉をつくり出しているのです」。障害者権利条約の基本理念の一つです。生まれくるくいのちは、その旺盛な生命力とはうらはらに、成長の歩みにおいてときに傷つきやすく、ときに不調となります。それでもくいのちは無数の愛や癒しをととしてその歩みを止めることはありません。病や障がいがかくいのちの多様な状況であるとすれば、そのなかに一人ひとりの人生の無二の物語があることは誰しも知っています。学びを深めたい、高めたいと臨むこともたちの物語こそが「TIP－OFF」の希望なのです。

しずおかTIP－OFF企画運営委員長 静岡福祉大学学長
増田 樹郎



皆様のご理解とご支援に感謝しています

今年度も奨学生が5名加わり累計で15名、2名が無事卒業し、在籍は13名。障がいがあってもみな、大学生活を謳歌しています。実際の生活では目に見えないハードルなどにそれぞれ苦労しているようですが、奨学金を応募する際に抱いた夢は追いかけています。

昨年(2025年)度、基金への寄付金の募集を新たに開始しました。基金原資をさらに膨らませて、末永く奨学金が続くように、今後とも適正な運営に努めてまいります。この2年足らずで170万円余の寄付をいただき、皆様のご理解とご支援に感謝しています。これからも奨学生の声を聴いて、さらに応援いただければ幸いです。

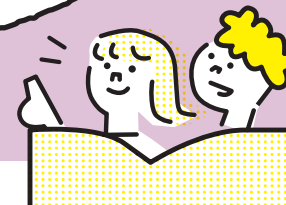
特定非営利活動法人 静岡市障害者協会会長
牧野 善浴



しずおかTIP－OFF(ティップ・オフ)奨学金とは

2023年(令和5年)、特定非営利活動法人静岡市障害者協会に「障害のある人が大学等へ進学し、教育を受ける機会を支援したい」と多額の寄付が寄せられました。寄付者の願いを具体化するために企画運営委員会を設け、【しずおかTIP－OFF(ティップ・オフ)奨学金】の給付事業を新設しました。

TIP－OFF(ティップ・オフ)とは、最近盛んになってきたバスケットボールで、試合開始の時に挙げたボールを両選手が弾く動作のことで、以前はジャンプボールと呼ばれていました。基金の寄付者が障害者バスケットボールの選手であったことに感謝の想いを込めて名付けました。



『臨床の現場に向かって』

2024年度奨学生 T.K
筑波技術大学 鍼灸学専攻4年
視覚障害1種1級 38歳

現在、筑波技術大学鍼灸学専攻の4年生です。最終学年となり、はり師・きゅう師、あん摩マッサージ指圧師の国家試験合格に向けた勉強と並行して、就活もしています。

4年生の授業では、ボランティア実習が始まりました。患者さんに対して問診や施術、カルテ作成を行い、実際の臨床現場に近い環境で学んでいます。施術を受けられた患者さんが喜んでくださるととてもやりがいを感じます。

座学では、これまでの復習や国家試験対策が中心となります。一度学習した内容を改めて学び直すことで理解が深まり、知識がしっかり定着していくことが実感できます。

国家試験対策では、難しいと感じていた試験問題が解けるようになり楽しくなってきました。学生生活も残りわずかですが、国試合格という目標に向かってしっかりと取り組んでいます。



施術実習の教室

『臨床検査技師になる』

2024年度奨学生 Y
広汎性発達障害 20歳

現在、臨床検査技師という医療系の職業を目指す3年生です。臨床検査技師は、病気の診断や治療のために迅速かつ正確なデータを提供することが求められます。検査方法は、患者から採取した検体について調べる「検体検査」と、身体に直接機器をあてる「生理機能検査」の2つ。授業や実習を通して、これらの検査をするために必要な知識・技術を学んでいます。

3年生になると、実習が週3回と忙しくなり、課題やレポートに追われる日々ですが、友だちとお互いに教え合い、先生方のサポートも受けながら、一つひとつ乗り越えることができます。いつも支えてくださる周りの方々に感謝し、目標に向かってこれからも努力していきます。



使っている教科書の写真

しずおか
TIP-OFF
奨学金

奨学生からの手紙

『一歩の、その先へ。』

2025年度奨学生 佐野夢果
慶應義塾大学環境情報学部／環境情報学科 身体障害 19歳

大学生活が始まって1年半。昨年は、新しい環境での一人暮らしのなか、学び、友人との出会い、そのすべてが新鮮でした。今は「大学に通うこと」から、「大学で何を学び、社会にどうつながるか」へと関心が変わってきています。

現在は、医療的ケア児やご家族への支援について研究しています。先生や仲間との対話を通して、「誰の声が置き去りにになっているのだろう」「本当に大切なことは何だろう」と問い続ける毎日です。新しい世界に出会い、考え、対話できる日々は本当にキラキラしています。一歩を踏み出すことは今でも怖いですが、その先には「生きていてよかった」と思える瞬間がありました。だからこそ、不安を抱える誰かに伝えたいです。「やってみたい」という気持ちを大切に、自分らしい一歩を踏み出してほしい、と。



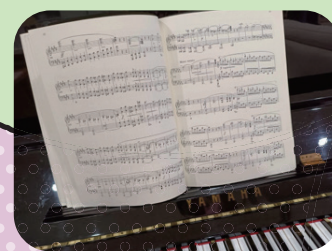
Photo by 池ノ谷侑花(ゆかい)

『キャンパス生活を愉しむ』

2026年度奨学生 Y
指定難病 19歳

幼い頃からの夢である教員を目指し、大学の教育学部に進学しました。1年の前期では、教育の本質や教職の役割、各教科の基礎といった教育の土台となる部分を主に学びました。これから専門科目の内容が増え、教育実習も始まるため、今からとても楽しみにしています。キャンパスでは、複数のサークルで新しいことに挑戦したり、音楽を継続したりと、新たな仲間と楽しく過ごしています。現在は自動車免許の取得に向けて自動車学校にも通っています。

定期的な通院や生活面での注意が必要な一面もありますが、両親や周りの方々の協力、奨学金のおかげで非常に充実した大学生活を送ることができています。これからも感謝を忘れずに、夢に向かって努力し続けます。



趣味で続けているピアノの楽譜

『大学院に向かって』

2025年度奨学生 T.N
静岡大学教育学部4年 体幹機能障害 22歳

静岡大学教育学部に所属しています。大学では技術や情報などの教科の専門と特別支援教育を中心にさまざまな分野を学んでいます。4年生になり教授や学生と議論する場も多く、とても充実しています。

入学後、病気の再発による度重なる治療、症状の進行など学業を続けるうえで困難が多く、思い通りではないことも多かったですが、それでも4年生まで学びを続けられたのは、多くの人に支えていただいたおかげです。この環境や大学内外の人々に感謝する日々です。たくさんの応援に応えられるよう精一杯学んでいます。

今年度卒業予定のため今後の進路について模索しています。卒業後は大学院へ進学し、研究を通して専門性を高めていきたいです。これまで沢山のの人に支えられてきました。今後は「誰かの支えになる人」になるために、自分らしく毎日を大切に過ごしていきます。



講義で制作したプログラムで動く車

『ドキドキわくわくの大学』

2026年度奨学生 K.S 愛知学院大学 文学部 身体障害 19歳

7月に入り、大学に入学してから3ヶ月が経つのに、ドキドキしながら入学式に向かったことが最近のことのように感じます。入学後しばらくは、大学の空気に慣れ、話せる友だちを探して、新しい暮らしに適応するのに精一杯であり記憶がありません。

入学に伴い寮で一人暮らしを始めましたが、平日は朝食と夕食を用意してもらえるので楽でした。しかし、それでも休日は食事の準備や他の家事を全て自分でしなくてはならないため、親元を離れて生活することの大変さを実感しました。

いま、ようやく新しいことに挑戦する余裕が生まれました。あまり忙しくすると疲れてしまうので、バイトやサークルに所属せずにいたのですが、趣味のハンドメイドをできるサークルがあり、入部することを決めました。少人数でマイペースに活動できますので、とても居心地がいいのです。夏休み明けには、バイトにも挑戦します。



喜びの入学式